

妊娠中の偶発合併症による心身障害児発生の 防止対策に関する研究

— 糖尿病合併妊娠について —

三重大学医学部産科婦人科学教室

松本 隆史・村田 和平

杉山 陽一

1. 研究目的

近年は各疾患に対する治療が進み、合併症の有する妊婦の増加傾向がみられる。その合併妊婦および児におよぼす影響ははなはだ重要な問題であり、わたしたちは合併症を有する妊婦および胎児、新生児について基礎的および臨床的検討をかさねてきている。すなわち、胎盤機能を内分泌学的、代謝学的な面より検索するとともに、児の子宮発育との関連についても検討を加えている。今回は、わたしたちの経過した糖尿病合併妊娠について、その概要を報告する。

2. 研究方法

対象は最近12年間に於いて当科で経験したwhiteの分類のclass B以上の糖尿病合併妊婦、総計47例である。これらについて既往分娩歴、母体および児の合併症などについて検討した。

3. 研究成績

糖尿病合併妊婦の内訳は初産婦16例、経産婦31例である。これら妊婦より出生した新生児について主な合併症を表1に示した。生下時体重が4,000g以上の巨大児の出生率が高く、少数例ながら周産期死亡率もやや高い。また生後、血糖値が30mg/dl以下を示す低血糖症は40%にみられ、ついで血清ビリルビン値が15mg/dl以上を示す高ビリルビン血症は31.1%と高頻度にみられた。臨床的にRDSと診断され、治療を行なった症例は13.3%であった。小奇形は3例においてみられ、これらは外表奇形の小奇形で、著明な奇形はみられなかった。

表2、3にわたしたちの経験した47例の全症例を示した。糖尿病の遺伝素因のある症例が高頻度に認められる。また各種要因により帝王切開術を施行した症例も多い。経産婦において、その既経分娩歴をみると、巨大児出生は症例、1、5、9、11、27、28、31、36、40と9例

に認められた。周産期死亡は症例1、5、6、9、11、13、41と7例に認められ、かなり頻度が高い。早産は症例6、17で、流産は症例18、27、34、38に認め、早流産の発生頻度も高い。

4. 考 察

今回の成績では著明な奇形はみられなかったが、これは対象となった症例が軽症であったためと思われる。しかし巨大児の出生率が高く、また児の周産期死亡率も高い。これを今回管理した場合と比較してみると、巨大児の頻度は24.3%より14.9%と減少している。周産期死亡も18.9%より4.3%と減少している。すなわち、このような合併症を有する妊娠においては嚴重な妊娠中における管理と、児保育の重要性が確認された。

これらの成績は諸家により報告されたものとはほぼ同様であるが、欧米に比べ糖尿病合併妊婦の少ないわが國の成績として注目される。

一方、出生児の長期予後についても検討を加えることが大切である。内科医、小児科医とも連絡をとり、検討を加えていく予定である。

表1 糖尿病合併妊婦より出生した新生児合併症の頻度 初産婦16例、経産婦31例

	症例数	頻度%
巨大児(4,000g以上)	7/47	14.9
(既往における巨大児分娩)	9/37	24.3
低血糖症(30mg/dl以下)	18/45	40.0
高ビリルビン血症 (15mg/dl以上)	14/45	31.1
低カルシウム血症	2/47	4.3
RDS	6/45	13.3
皮膚疾患	11/45	24.4
先天異常	2/47	4.3
周産期児死亡	2/47	4.3
(既往における周産期児死亡)	7/37	18.9

帝切率：38.3%(18/47)

(1968~1980)

表2 糖尿病合併妊婦(I)

症例	年齢	既往分娩歴	分娩週数	児生下時体重(g)	性別	母体側合併症	分娩様式
1	29	2 (I. 黄疸7日目死亡 II. 黄疸・交換輸血)	39	3,645	♂	妊娠中毒症(軽症)	
2	36	1 (4,000g)	39	2,990	♂	骨盤位・羊水過多・臍帯脱出	帝切
3*	25	0	38	3,360	♀		帝切
4	38	㊦ 0	38	3,110	♂	高年初産婦・妊娠中毒症(重症)	帝切
5*	26	1 (4,680g 死産)	39	4,425	♂	妊娠中毒症(軽症)	帝切
6	29	2 (I. 9カ月早産死亡 II. 3,500g)	40	4,710	♀	CPD	帝切
7	39	㊦ 1 (3,110g 症例4)	33	1,800	♀	前期破水(早産)・前回帝切 前回帝切インスリン	帝切 ⁺
8	32	1 (3,250g)	40	4,250	♂		(誘)
9	25	1 (3,900g 重症黄疸 5日目死亡)	39	3,090	♀		(誘)
10*	33	㊦ 0	38	3,300	♂	高年初産婦・軟産道強靱 インスリン	帝切
11*	29	2 (I. 4,680g 死産 II. 4,425g 症例5)	38	4,300	♂	前回帝切	帝切
12	23	1 (2,600g)	37	2,430	♀	インスリン	(誘)
13*	31	2 (I. 3,100g II. 3,300g 子宮内死亡)	39	3,300	♀		(誘)
14*	25	0	38	2,770	♂	軟産道強靱・児小奇形	帝切
15*	25	0	37	2,640	♀		(誘)
16	24	0	37	3,150	♂	インスリン	(誘)
17*	29	1 (9カ月早産2,405g)	37	2,890	♂	骨盤位・妊娠中毒症(軽症) インスリン	(誘)
18	31	1 (I. 3カ月流産, II. 3,900g III. 5カ月流産)	37	2,880	♂	インスリン	(誘)
19	26	2 (I. 2,600g II. 2,430g 症例12)	37	2,540	♀		(誘)
20*	21	0	39	2,630	♂		(誘)
21	26	1 (I. 3,150g 症例16)	38	3,480	♂	インスリン	(誘)
22	24	0	37	3,410	♀	インスリン	(誘)
23	22	0	39	3,240	♀	骨盤位	(誘)
24	28	3 (I. 2,690g 帝切, II. 3,110g III. 2,890g)	39	3,130	♂	既往帝切	(誘)
25*	28	1 (2,770g 症例14)	39	2,640	♀	前回帝切	帝切

表3 糖尿病合併妊婦(II)

症例	年令	既往分娩歴	分娩週数	児生下時体重(g)	性別	母体側合併症	分娩様式
26*	28	1 (2,640g 症例15)	39	3,060	♂		(誘)
27	33	1 (I. 4,500g 帝切 II. 2カ月流産)	38	5,300	♂	CPD (子宮内胎児死亡)	帝切
28	39	2 (I. 3,400g II. 4,000g 帝切)	39	3,200	♂		(誘)
29	28	◎ 0	38	2,880	♂	妊娠中毒症(軽症) インスリン	帝切
30	26	0	38	2,980	♀		(誘)
31*	36	3 (I. 2,900g II. 3,400g III. 4,000g)	37	3,150	♂	インスリン	
32	22	1 (3,150g)	38	3,340	♂		
33	29	0	38	2,780	♂		(誘)
34	37	0 (I. 4カ月流産)	39	3,910	♀	高年初産婦 妊娠中毒症(軽症)	帝切
35*	29	0	40	3,360	♂	妊娠中毒症(軽症)・軟産道強靱	帝切
36	37	2 (I. 3,700g II. 4,600g 帝切)	37	3,520	♂	前回帝切・軟産道強靱 インスリン	帝切
37	26	1 (体重不明)	39	2,370	♂	骨盤位・羊水過多・軟産道強靱	帝切
38	32	1 (I. II. 3カ月流産 III. 3,850g IV. 4カ月中絶)	39	2,980	♂		(誘)
39*	35	1 (I. 2,720g)	40	2,870	♀		(誘)
40*	29	2 (I. 4,150g, II. 5,140g)	39	3,280	♀		(誘)
41*	37	1 (I. 1,950g 胃穿孔死亡)	38	2,050	♀	妊娠中毒症軽症・前回帝切	帝切
42	29	0	40	4,020	♂	妊娠中毒症軽症	(誘)
43	29	2 (I. 3,200g, II. 3,000g)	38	3,780	♂		(誘)
44	30	1 (I. 3,810g)	37	3,610	♂		(誘)
45*	43	0	36	1,980	♂	高年初産・前期破水・軟産道強靱・妊娠中毒症軽症	帝切
46*	34	2 (I. 3,900g, II. 3,950g)	37	4,280	♂		(誘)
47	29	1 (I. 1,950g 子宮内死亡)	38	3,750	♀	インスリン	(誘)
48	23					インスリン	
49*	41	2 (I. 3,100g, II. 3,000g III. 5カ月中絶)				インスリン	

* 遺伝素因あり



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究目的

近年は各疾患に対する治療が進み,合併症の有する妊婦の増加傾向がみられる。その合併妊婦および児におよぼす影響ははなはだ重要な問題であり,わたしたちは合併症を有する妊婦および胎児,新生児について基礎的および臨床的検討をかさねてきている。すなわち,胎盤機能を内分泌学的,代謝学的な面より検索するとともに,児の子宮発育との関連についても検討を加えている。今回は,わたしたちの経過した糖尿病合併妊娠について,その概要を報告する。